
プロジェクト	金融商品に関する会計基準の検討
項目	第 413 回企業会計基準委員会及び第 145 回金融商品専門委員会 会で聞かれた意見

本資料の目的

1. 本資料は、第 413 回企業会計基準委員会（2019 年 7 月 29 日開催）及び第 145 回金融商品専門委員会（2019 年 8 月 8 日開催）において審議した項目について、聞かれた主な意見をまとめたものである。

会計基準の開発に着手するか否かの検討

金融商品の認識の中止

（第 413 回企業会計基準委員会）

2. 認識の中止に関するコメント提出者の主要な関心事として、金融資産の証券化取引にかかわる論点以外の論点がそれほど多くないのであれば、認識の中止を今回のプロジェクトの範囲に含めないとする事務局の提案に賛成する。

金融商品の分類及び測定

（第 413 回企業会計基準委員会）

3. 分類及び測定と減損については切り離して検討することが難しいため、資産クラス毎に検討を進める方法が望ましいと考えている。事務局の提案は、その方法に近い内容となっているため、支持できる。
4. 契約キャッシュ・フロー要件については、実務的な観点というよりは、概念的な観点より、現行の日本基準との間で色々なコンフリクトがあると考えているため、もう少し慎重に時間をかけて整理すべきであるという意味でも、事務局の提案に賛成する。
5. 段階的に検討を進めるとする事務局の提案に賛成する。また、検討を進めるにあたっては、可能であるならば、今後の大まかなスケジュールを示して頂きたい。

(第 145 回金融商品専門委員会)

6. 分類及び測定は、金融商品会計基準における他の領域にも非常に大きな影響を及ぼすと思われるため本来的には先に決めるべきと考えるが、現行の保有目的に基づく分類が実務上非常に浸透していることを踏まえると、実務上の混乱が少ないアプローチであり、事務局の提案に賛成する。
7. 減損の検討終了後に分類及び測定の検討を開始するといったフェーズ分けのアプローチよりも、同時並行で段階的に整理していく方が現実的であり、事務局の提案に賛成する。

金融資産の減損

(第 413 回企業会計基準委員会)

8. 将来予測的な情報の利用については、仮に日本基準に導入していく場合には、過度にプリンシプルベースの定めに留まるのではなく、会計基準の適用可能性及び財務諸表の比較可能性を高めるため、適用上の工夫を検討して頂きたい。
9. 中小規模の金融機関のための簡便的な手法について当初から検討を進めることに懸念がある。まずは、全体として適用可能な、簡便でかつ利用価値の高い財務情報を生み出す方法について検討すべきであると考ええる。

(第 145 回金融商品専門委員会)

10. 金融資産の減損の見直しにより、最も大きな影響を受けると考えられる金融機関を念頭に置いて当面検討を進めることは理解できるが、最終的には、金融機関以外の一般事業会社も含む全ての企業に対して適用されることを踏まえ、過度に複雑な会計基準にならないよう留意すべきであると考ええる。
11. IFRS 第 9 号における減損の規定が原則主義的な簡潔な定めとなっている一方で、バーゼル銀行監督委員会や GPPC(グローバル・パブリック・ポリシー委員会)等の他の関係者が金融機関向けの詳細な適用ガイダンスを公表しており、金融業界においては、これらが一体となって相当程度詳細な会計実務が形成されていると認識している。金融機関における減損の適用について今後検討するにあたり、当該ガイダンス等の動向も踏まえ、議論していくべきと考える。
12. ECL モデルと CECL モデルを比較検討する進め方に賛成する。仮に CECL モデルの方が優位であると結論付けられた場合には、それを反映する選択肢を残すべきと考える。

ヘッジ会計

(第 145 回金融商品専門委員会)

13. ヘッジ会計に関する検討については、分類及び測定の議論が影響してくると思われるため、現時点で結論付けるのではなく、分類及び測定に関する検討結果を踏まえ、最終的に議論すべきと考える。
14. 金利スワップの特例処理や為替予約等の振当処理が実務上浸透していることを踏まえると、先行して会計基準の開発を進める必要性は高くないと考えられるため、ヘッジ会計に関する将来的な検討を否定するものではないとした上で優先度を後順位とする事務局の提案に賛成する。

その他

(第 145 回金融商品専門委員会)

15. 事務局が提案する全体的な進め方について反対するものではないが、意見募集文書公表後、一定程度の期間が経過しているため、会計基準の開発に関する予見可能性を確保する観点より、意見募集に寄せられたコメントに対する回答を何らかの形で公表していくべきと考える。

以 上